

第7次総合計画策定に向けた
地区別ワークショップ（東山地区）要旨

【日時】 平成27年9月29日（火）13:30～16:00

【場所】 東公民館1階会議室

【ワークショップ参加者】 15名

【ファシリテーター（進行役）】 (株)日本経済研究所 2名

【事務局等】 市職員4名

【配付資料】

- ・資料1 地区別ワークショップ（東山地区）次第
- ・資料2 地区別ワークショップ資料 会津若松市 全体資料
- ・資料3 地区別ワークショップ資料（東山地区WS）東山地域

テーマ：「安全・安心なまちづくり～地域の防災・防犯～」

【議事】

1. 開会（企画調整課）

2. 配布資料説明

① 新総合計画について（企画調整課）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

② 会津若松市・地区別の概況について（進行役）

⇒ 全体説明後、2グループに分かれて作業をした。2グループのうち、Aグループに東公民館長、Bグループに東公民館職員が参加した。

⇒各グループに日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。

3. ワークショップ（進行役）

① 第1部 「地域の防災・防犯」の視点からみたわがまち（東山地区）における課題

- ・自己紹介
- ・「地域の防災・防犯」の視点からみた、わがまち（東山地区）の課題をポストイット（付箋）に記入（作業）（別紙参照）
- ・記入した内容を各自グループ内で発表
- ・グルーピング（分類）してキーワードを設定

i) Aグループ

防災： 災害発生時の知らせ方、避難経路、避難所の特定、道路事情（狭い、ふさがれた時の別ルートがない）、高齢者のフォロー、浸水対策、除雪、排雪の対策

両方： アパート住人が把握できない、人間関係の希薄化、防災・防犯への教育・情報・訓練

防犯： 空き家対策、送り付け商法への対策、高齢者の防犯意識、子供の遊び場の減少、防犯灯・防犯カメラが少ない、人通りの少ない道路がある

ii) Bグループ

防災： 災害の不安（水害、土砂災害、雪）、避難場所・避難所、組織作り、予算、要支援者への支援、防災への意識

防犯： 組織、予算、意識、要支援者への支援

② 第2部 キーワード（課題）に対する取り組みの検討

- ・書記決定
- ・キーワード（課題）を踏まえて、具体的にどのような取り組みを行えば課題を解決するか、話し合いを行う。
- ・取り組みについて、「①具体的な取組体制」と「②具体的な方策」の2つについて話し合い、話し合った結果を書記がポストイット（付箋）に記入し、模造紙に貼付
- ・発表者決定

i) Aグループ

取組体制：災害発生の伝達方法の組織作り、連絡網の活用（定期的な更新）、町内会にある組織を活用する

方策： 防災無線の設置、聞こえない場所の解消、細分化された防災計画を作る、世帯情報の開示を区長レベルまで広げてほしい、芋煮会等行事の際に防災防犯の話をからめてみる、懇親会の開催、見守り隊の発展（登下校だけでなく遊び場でも）、町内で楽しみながらパトロールを継続する、企業警察等とタイアップして防犯カメラモデル事業、危険箇所の優先順位づけ

ii) Bグループ

取組体制：自主防災組織を作る、現状把握、日頃からの人間関係

方策： 国、市等の備品等を借りる、市（県）との協働、出前講座、防災訓練、防災新聞（情報）、避難所・避難場所を近くの施設や民間施設の活用、備蓄を

③ 第3部 各グループ発表

- ・各グループの成果について、②の内容を全体発表

i) Aグループ

- ・災害発生時の知らせ方が課題である。ソフト面では、災害発生時の伝達方法の組織づくりや連絡網の活用を考えた。ハード面では、防災無線の設置などが必要である。
- ・また、予め避難経路や避難所の特定、東山地区の狭い道路事情を考慮した対応策（別ルート確立や、孤立した場合の備蓄等の検討）が必要であり、そのためには町内会や区長制度といった従前からの組織を活用しながら、新たな対策検討組織を立ち上げるなどが必要ではないか。
- ・東山地区は、土砂崩れがあった場合、小学校や公民館は避難所として使えない場合がある。災害の種類ごとに避難所を変える必要がある。
- ・防災・防犯両方に関係する課題としてアパートの住人が把握できない、人間関係の希薄化、防災・防犯への教育・情報・訓練がある。普段から、近隣とコミュニケーションをとるこ

とが必要であり、芋煮会の活用や懇親会の開催などを方策として考えた。子どもが参加する行事には、親も参加することが多いので、子どもを巻き込みながらやっていきたい。

- ・防犯については、空き家対策が課題である。一見防犯と関係ないが、球技ができるような子どもの遊び場の減少により、子どもが危険な場所に行くことになるのではないかという意見も出た。防犯対策としては、従前からの見守り隊を発展させることにより、球技ができるような遊び場を確保していくことや、ジョギングやウォーキングなど仲間と楽しみながらパトロールを継続すること、危険な個所の優先順位づけをすることが大切と考えた。

ii) Bグループ

- ・東山地区の中でも地域によって課題は異なるが、今回は特に土砂災害を中心に議論した。防災対策には膨大なお金がかかることから、予算という課題がある。市に予算をとる覚悟があるのかという意見があった。これに対しては、自助・共助の考え方でまず地域でできることをやるべきではないかとの意見があった。アパート住人や高齢者など要支援者の支援も課題である。また、避難場所・避難所が土砂災害警戒区域内にあるという問題もある。
- ・取り組み体制としては、慶山地区の自主防災組織の取り組みについて話を聞き、自主防災組織を作るといふことがあるとの意見が出た。日頃からの人間関係が重要と考えた。
- ・方策については、情報を地区に広めるための防災新聞の発行や出前講座の活用、防災訓練などがある。避難場所に毛布や食料などの備蓄を整えることが必要である。避難場所・避難所については、地区以外の近くの施設や、民間施設の活用を考えた。春夏秋冬、昼・夜でも、課題、方策は異なる。国、県、市と協働して取り組まなければならない。

④ 事例発表（慶山自主防災会 庶務 原田氏）

- ・慶山自主防災会の取り組みについて、結成に至る経緯、活動内容、課題等について紹介

⑤ 全体講評（進行役）

地域の防災・防犯について、非常に多くの課題が抽出され、地域の防災・防犯意識の高さを感じた。方策はハード面、ソフト面の両面があり、いずれも重要だが、ハードの整備についてはコストや時間がかかることもある。ソフトの取り組みでどのように補うかを考えなければならない。実施体制については、行政が実施すべきこともあるが、地域の防災対策については、地域でなければわからないこと・できないことが多い。「自助」「共助」の考え方に基づく地域での取り組みが非常に重要である。慶山地区のように自主防災組織を組織することも一つの方法であり、参考になると思う。一方で、組織を立ち上げて取り組みを行うことは大変なことであり、負担も大きい。自治会などの既存の組織を活用して話し合いを深め、スケジュールを立てて、できることから段階的に始めてはどうか。防災・防犯の取り組みは、継続することが何より重要である。楽しみながら継続できる工夫を検討するとよいのではないかと思う。

短い時間の中で、ここまでの議論ができたことは素晴らしい。引き続き、地域での防災・防犯についての取り組みを進めていただきたい。

4. 事務連絡（企画調整課）

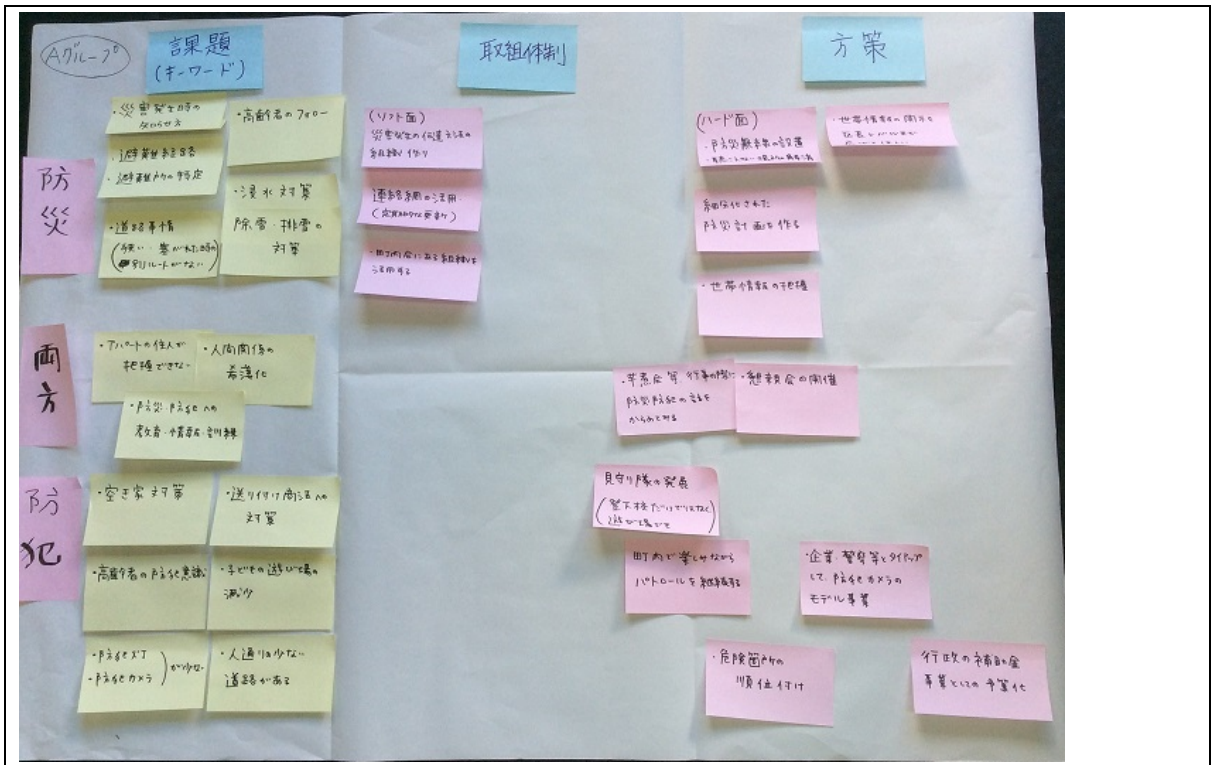
5. 閉会（企画調整課）

【意見 (写真)】

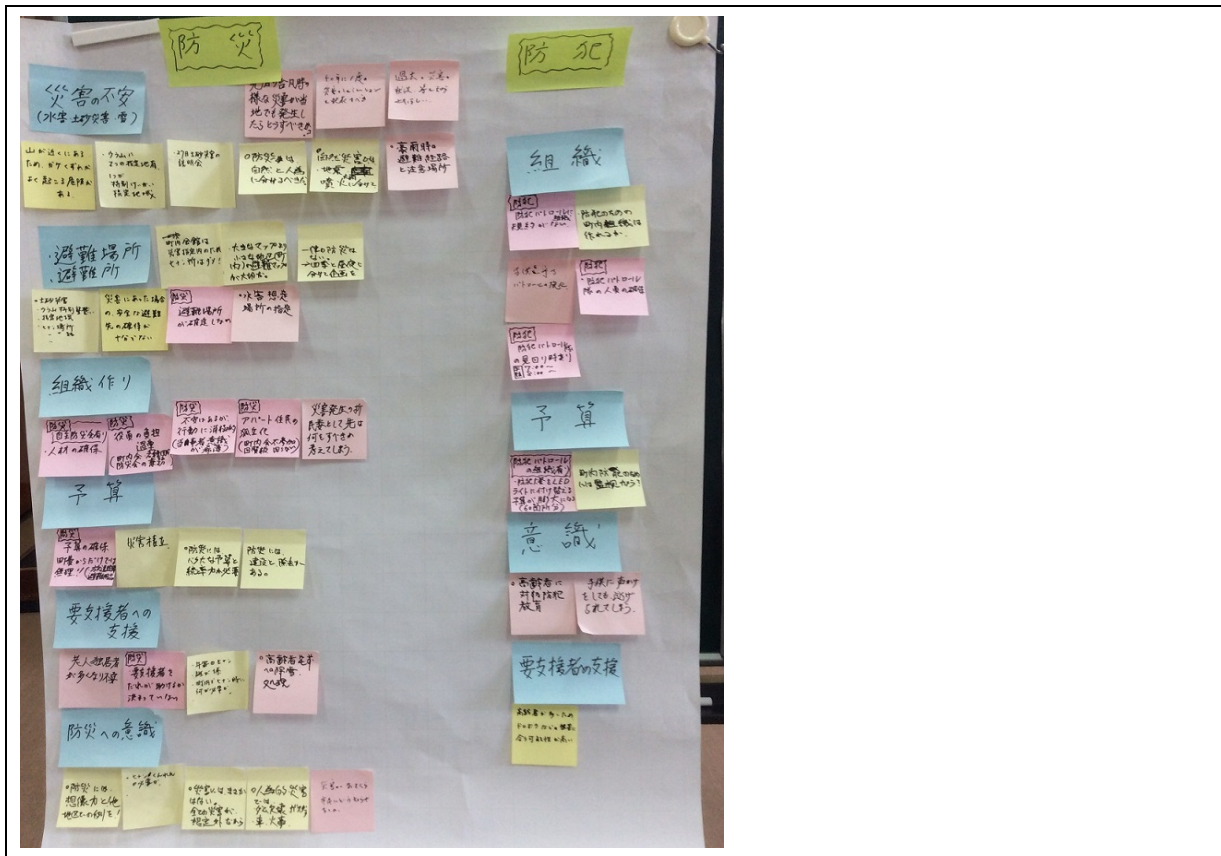
Aグループ 課題



Aグループ 課題、取組体制、方策



Bグループ 課題



Bグループ 課題、取組体制、方策

